



(1) ゲートウェイカレッジ

世界で活躍する卓越した研究者を輩出するために留学生100名、日本人100名からスタート予定。総合型選抜を通じて学部というくくりを設けずに入学し、専攻分野選択やキャリア形成のための時間を十分に確保した環境下で、日本人学生と留学生がともに学ぶ国際共修環境を整備し、言語を英語として過ごす。完全クォーター制を導入し、一定成績を収めればフルサポートの大学院プログラムへの進学支援を行う。

(2) 青葉山新キャンパス

仙台市地下鉄東西線青葉山駅に近く、理学研究科や工学研究科などが設置されている青葉山キャンパスに隣接。農学研究科、災害科学国際研究所といった教育・研究施設のほか、留学生と日本人の752名が混住するユニバーシティ・ハウス青葉山、保育所、図書館等が整備された一つの「まち」として機能している。

その中に、産学官が結集し、大学とともに社会価値創造を行う「サイエンスパーク」の整備が本格的に進んでいる。サイエンスパークは、研究開発から事業経営、制度設計まで一貫し遂行していくオープンイノベーションのためのエコシステムである。

青葉山新キャンパスに整備中のサイエンスパーク



※一部CGIによるイメージ

うに、わが国屈指の研究大学として世界水準の研究を展開しています。2024年には、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)として「変動海洋エコシステム高等研究所」(AIMEC)を設置しました。海洋研究開発機構と共同で、人間社会に役立つ海洋生態系の変動予測の実現を目指します。また、個別化医療・個別化予防を柱とする未来型医療の実現を目指し、「未来型医療創成拠点(INGEM)」を定め、その中心組織として未来型医療創成センターを設立。世界でも有数の15万人規模のデータを蓄積している東北メディカル・メガバンク機構と連携し、遺伝要因・環境要因と疾病の関係性の解明に関する研究と、その成果の臨床実装を推進しています。

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、「災害科学国際研究所」を設立、地震後の海底地殻変動の様子を明らかにしました。世界の巨大災害の被害軽減に向けて実践的防災学の礎を築くことが期待されています。スピントロニクス、材料科学の分野でも海外の研究者と国際的共同研究を展開しています。

一方、東北大学は破壊的イノベーションの創出に挑戦する人材を輩出し、若手研究者が躍進する大学であることを目指す「東北大学若手躍進イニシアティブ」を宣言。学生から若手までシームレスな支援を提供しています。

社会との共創を目指してサイエンスパークの整備

実学尊重の根底にあるのは、社会や生活に広く貢献できる大学としての存在を目指すということです。このため、東北大学では、「社会との共創」をテーマにさまざまな取り組みを行っています。その一つが共創型創業への挑戦です。医薬品をはじめとする基礎研究・臨床開発から事業化まで東北大学でしか成し得ない一貫通の展開を目指します。また、SDGsに対応する新概念のナノ材料プロジェクト、素材の生産革新による循環産業創造プロジェクト、相及び界面制御による新素材開発プロジェクトを行っています。

そして、青葉山新キャンパス^②では、産学官が結集し、社会価値創造を行う共創の場「サイエンスパーク」の整備が本格的に進んでいます。2024年4月には、3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu(ナノテラス)」の運用が開始されました。ナノレベルで物質構造を見ることができるようになる顕微鏡で、わが国のものづくりを進めるために重要な研究基盤です。

門戸開放の理念受け継ぎ真のDEI実現目指す

日本で初めて女子学生を受け入れた東北大学は、「門戸開放」の理念を創立以来体現しています。「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)、多様性・公平性・包括性の意」推進センター^③や「工学系女性研究者育成支援推進室(Alice)」を設置し、学内に国内最大級の保育所^④を設けるなどしてきました。2022年には東北大学DEI推進宣言を発出しました。

富永総長は「国際卓越研究大学に認定され、世界最高水準の研究大学を目指すとともに、真のDEI実現に向けて積極的に取り組んでいます。女性の活躍はもちろんのこと、学生から研究者まで性別や国籍、民族、文化の異なる多様な多彩な人材が集まることで東北大学の教育・研究が進展していきます。少子化の流れの中で、一人ひとりの教育の質を高めるために奨学金制度を含めたシステムづくりも進めています。

いま東北大学は「MOVE AND SHAKE、知の加速が、世を動かす」をスローガンに掲げ、世界にその魅力を発信しています。ある分野において非常に影響力のある、リーダーシップを発揮する人、人の心を熱くする人をムーバー・アンド・シェイカーと呼びますが、東北大学は教育と研究を通して、ムーバー・アンド・シェイカーを集め、そして世界に送り出していく場になりたいと考えています。東北大学は、皆さんのすべての可能性に寄り添います。世界に挑戦するゲートウェイにもなれる大学です。ぜひ本学で学び世界に羽ばたいてください」とエールを送っています。

(※) 大学が学内に設置する保育所間での比較。3か所(青葉山みどり、川内けやき、星の子保育園)合計の受け入れ人数は国内最大級。



とみながていじ
富永 悌二 総長

1982年東北大学医学部医学科卒業。87年米国フィラデルフィア生体膜研究所留学。2000年広南病院脳神経外科部長。03～23年東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経外科学分野教授。19年～23年東北大学病院長、新型コロナウイルス感染症対策に尽力。23年東北大学理事・副学長を経て、24年より現職。

1907(明治40)年、日本で3番目の帝国大学として創設された東北大学。「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を建学の理念に掲げ、世界水準の研究教育を展開しており、2024年にはわが国で初の「国際卓越研究大学」に唯一認定されました。「MOVE AND SHAKE、知の加速が、世を動かす。」というスローガンを掲げ、「インパクト」「タレント」「チェンジ」の3つのコミットメントのもと、世界に伍する新たな大学を目指して先導的な改革を進めています。

東北大学は日本で初めて女子学生が誕生した大学としても知られています。「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)」の実現に取り組み、女性や若手研究者に活躍の場を提供するとともに、グローバル人材の育成に努めています。

東北大学

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内28 入試課 TEL 022-795-4802 <https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>

3つのコミットメントのもと教育・研究・運営体制を改革

東北大学は開学以来、研究と教育を一体のものとして位置づけ、優れた研究に裏打ちされた教育を目指す大学として、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。

富永悌二総長は、「1907年の創設以来、研究第一、門戸開放、実学尊重の理念のもと、多くの人材を輩出してきました。今回、国際卓越大学の第一号に東北大学が認定されたことは、我々の大学にとって歴史的にインパクトのあることです。研究力を上げるためには研究と教育のシステム改革、そして学内の経営運営の体制の変革が必要で、こういったことを含めた新しいタイプの国立大学になっていくことが求められています」と語ります。

東北大学の計画では、3つのコミットメント「インパクト(未来を変革する社会価値の創造)」「タレント(多彩な才能を開花させ未来を拓く)」「チェンジ(変革と挑戦を加速するガバナンス)」のもと、全方位

の国際化など6つの目標を達成するための19の戦略を策定しています。特に、研究力を強化していくため、「Human Capital Management(HCM)」室^⑤を設置しました。研究者人材部門、経営スタッフ人材部門など4つの部門で構成された同室は、研究ユニット主宰者を中心とした機動的な研究体制の確立に向け、戦略的な人事実行する組織です。

大学ランキングで総合1位ゲートウェイカレッジ新設へ

東北大学は、教育面や国際性に焦点を置いた「THE日本大学ランキング2025」で5回連続総合1位を獲得。教育、研究、社会連携の好循環に基づく「創造と変革」の姿勢、学生の「挑戦する心」を育て、羅針盤のない未来を担う人材を世界に送りだす大学として評価されました。

学部ごとの教育目標に応じ、入学時から段階的に全学教育科目と専門教育の授業を実施しています。英語4技能と国際コミュニケーション力をこれからの時代の重要な教育テーマととらえ、言語や文化の異なる学生同士が協働学習を行う「国際共修科目」も数多く提供。英語による授業だけで学位が取得できる国際学士コースも設置しています。さらに、教育プログラムとして「挑戦カレッジ」を導入し、グローバルリーダー育成プログラムや、SDGsプログラムなど5つのテーマで実施しています。2027年度には、国際的に



教育・研究の場に多様な交流が広がっている

世界水準の研究を推進若手研究者支援も充実

東北大学は、国際卓越研究大学に唯一認定されたことに象徴されるように、

活躍できる能力に主眼を置いた「ゲートウェイカレッジ」を新設します。

学びの場は世界にも広がっています。交換留学をはじめ、夏休み・春休み中に実施する短期留学プログラム「SAP」、研究を主目的とした「COLABS」、ダブルディグリープログラムなど多彩なプログラムを用意しています。

「海外を経験することは、これからのグローバル社会には必須です。ゲートウェイカレッジにおいても、短期間でも海外を経験してもらうことを全員に行うようにします。総合型選抜の場合、選考から入学までの期間があるので、将来的にその間に海外に行ってもらうことも構想しています」と富永総長は説明します。